

令和4年度 第3回「吉野谷地区 まちづくり会議」概要

日 時：令和4年5月8日（日） 10：00～11：00

場 所：吉野谷公民館

参加団体等：吉野谷区長会、体育協会吉野谷支部、吉野谷女性の会、吉野谷子ども会
育成委員会、吉野谷老人クラブ連合会、吉野谷ボランティア、吉野谷公民館長、白
山市町会連合会理事、各町内会長など

発言【1】

- (1) 市民協働で創るまちづくりについて
- (2) 休止となっているスキー場の今後の見通しについて
- (3) 温泉センター、セミナーハウスの利用を継続した上での開発について

【市】

- (1) 地域コミュニティについては、主に災害に備えて、被災した場合に自分たちでどう守るかということに住みみんなで話し合い、防災訓練などを通じて地域のつながりを作ることが一番大切になります。住民の皆さんには、地域の色々な事に関わりを持ち、行政を動かしていくという考えを持ってほしいと思います。

また、白山麓は高齢化が進み、地域にこだわらず、吉野谷地域だけでできないことは尾口地域とも連携するなど検討が必要だと思えます。防災の中にコミュニティをどう組み込んでいくかということが、非常に大事なことだと考えています。

- (2) 現在、休止となっているスキー場については、休止ではなく廃止にすべきではないかという意見が議会からも出ました。このまま放置しておけないので、地主の皆様と、どう折り合いを付けるのか、これからの協議になります。問題を先送りはできないので、廃止に向けた形でどのように進めていくのか、行政としてはやらざるを得ないということを理解していただきたい。どう解決していくかがこれからの課題になります。

スキー場の廃止検討については、土地賃貸借契約が8月31日で切れるため、それまでに新たな土地賃貸借契約を締結し、今後の廃止に向けて協議を継続的に行ってまいります。

- (3) 新中宮温泉センターは、市民温泉として地域住民はもちろん、白山麓を訪れる方々の安らぎの場とも言える施設であります。今後も適切な施設の維持保全に努めながら現施設の運営を継続するとともに、魅力アップの施策も検討して

いきたいと思います。

また、吉野谷セミナーハウスについては、団体やグループで宿泊可能であり、施設周辺の自然環境を生かした活動ができるよう、今後も利用を促していきたいと考えております。

その他、中宮地区にも国道が通るようにバイパスの整備を国に要望しています。まず道路事情を良くするなど、利便性を高め、中宮地区の良さを引き出すことが出来れば、地区を残していく方向に繋がるのではないかと期待しております。

発言【2】

白領小中学校の生徒減少の中での魅力発信について

【市】

昨年度は地域のことを学ぶ学習を通して、地域の良さを学び、その成果をリーフレットにして地域に配付しているところです。このような活動を行い、学校の魅力を発信しております。

また、白山麓の学校間での合同学習など、他校との交流の量は他地域と比べても多くなっています。

本年度は秋に白山ジオパーク全国大会が白山市で開催されます。大会では、児童生徒が地域の魅力を発信するためのプレゼンテーションやポスターセッションをすることになっており、こういった機会を活用し、地域の魅力・学校の魅力を多くの方に届けていく予定をしております。

発言【3】

地域での住民(若者)の定着率について

【市】

現行の白山ろく地域定住促進奨励金制度等の見直しを行い、支援策の充実を検討しております。住んでみると思いのほか不自由ではなく、多少の不便さも住み手の考え次第です。自然豊かな居住環境の良さを更に情報発信していきたいと考えております。

発言【4】

新県知事と連携しての地域活性化について

【市】

ジオパークを核とした誘客を図るとともに、県が推進する文化観光の視点から、

白山ろくの豊かな自然や歴史遺産を発信していき、地域の賑わいに繋げていきたいと考えております。

白山ろくには、ジオパーク・SDGsの観点に合う自然や文化を学び体験できるスポットがたくさんあり、それらをまとめたガイドブックをR3年度に作製しました。そのガイドブックを活用して、今年度は県外からの修学（教育）旅行誘致活動を行う予定をしております。

発言【5】

工芸の里など、使用していない建物を利用しての出店について

【市】

令和3年度、レストラン部分のテナント募集を白山商工会を通じて行いましたが、応募者は居ませんでした。今後、そのような要望があった場合は検討してまいります。

旧吉野谷市民サービスセンターについては、ジオパークのビジターセンターや民具等を展示施設に活用出来ないか、観光文化スポーツ部や関係部署と活用検討会を実施しているところであり、事務所として活用していた施設を集客施設へ用途を変更するにあたり、施設の老朽化や調整事項が大変多く、時間を要している状況です。

旧吉野谷小中学校については、現在、校舎を博物館の収蔵品倉庫として松任博物館、体育館を薬用植物の貯蔵庫として農業振興課、寄宿舍を書類保管庫として吉野谷サービスセンター、グラウンドの一部を広域簡易水道施設の配水池として鶴来白山ろく上下水道課、その他プール周辺の用地等を教育総務課で管理しており、複数の課で適切な管理を行っています。

発言【6】

白山ろくテーマパークなど都市公園を含めた、獅子吼・手取の自然公園と白山麓全体の浮揚策について

【市】

石川県において、河内、鳥越、吉野谷地区で白山ろくテーマパークの整備を進め、開園や部分開園したところがあります。市は整備中や計画中の園地の早期完成、また鶴来地区の一部を含めた拡大園地の整備促進を県市長会等を通じ、県に要望しております。

獅子吼高原については、平成30年度に策定した「獅子吼高原再整備基本計画」を

基に、県内で最初に指定された県立自然公園であることから、自然回帰による緑の空間の再生を進めております。

また、北國新聞創立130年ということで、「手取川環境総合調査」と題してその手取川周辺の自然や地質などを研究してもらうことになりました。手取川の水は能登島までいっているということも含めて、手取川流域の良さをもう一度改めて2年かけて調査してもらい、その成果を今後につなげていきたいと考えております。

そして、今年度は国・県と連携して、白山の国立公園指定60周年記念事業を実施します。市では、「白山」の写真展やイベントを開催する予定があり、一連の事業を機に県内外の方々に、現地に足を運んでいただき、白山はもとより白山ろくの魅力を十分に味わっていただきたいと思っております。

発言【7】

コミュニティバス「めぐーる」について

- (1) 公民館事業での利用について
- (2) 診療所へ行く際の待ち時間について
- (3) 地域で福祉バスを持つことについて

【市】

- (1) コミュニティバス「めぐーる」については、鉄道や路線バスが運行されていない交通空白地を主に「買物」「通院」に利用できるよう設定しております。

吉野谷地域につきましては、診療所への「通院」、Aコープへの「買物」、小中学校への「通学」、保育園への「通園」、路線バスとの接続ができるようダイヤを設定しております。

なお、公民館行事等に「めぐーる」を利用することについては、不定期利用者への対応は困難でありますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

- (2) 毎年ダイヤ改正しており、土曜日の運行も始まりました。4月のダイヤ改正では、診療所へ他の地域の市民も利用できるよう調整したことにより、診療所から瀬女方面へのダイヤを30分遅らせたものになります。診療所での待ち時間が増えることになり、大変ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

ご都合が悪くなられたことは参考意見とさせていただきますが、お1人だけの乗車ではないので、色々なご意見や利用状況を反映させて、少しでも便利になるよう努めてまいります。

- (3) 市民の足を確保する有効な輸送手段といたしましては、市民協働のまちづく

りの一環としての福祉バスによるボランティア輸送も考えられますが、法的な制約もあることから、まずは地元から提案があった場合には、地元とよく相談しながら、地域に合った方策を検討してまいりたいと考えております。